

東海、九州など多くの地域で改善～物価高を吸収できる賃上げの持続性がカギ

2023年1月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

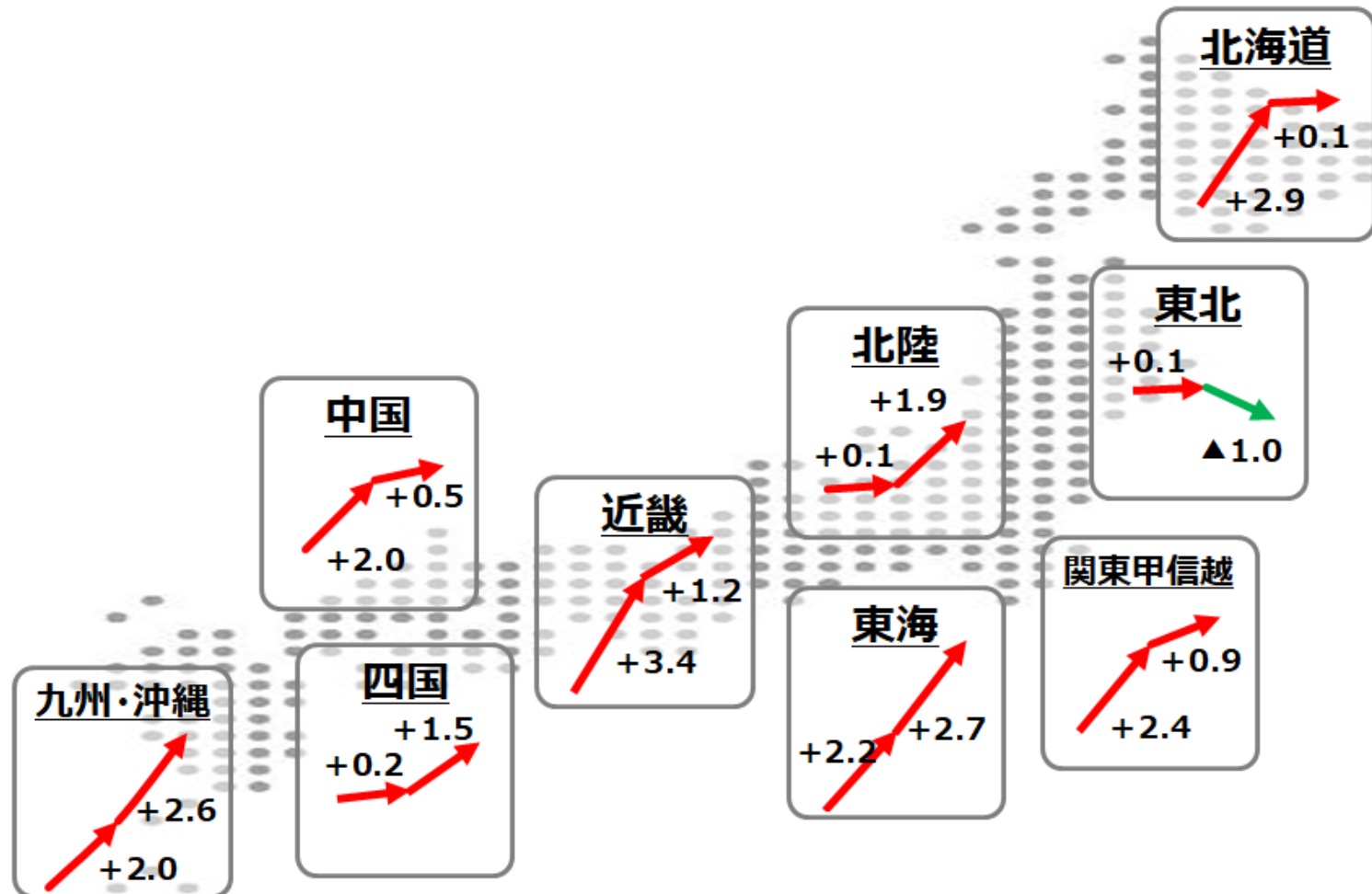
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2023年1月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東北」を除く全地域で改善した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、今冬は感染抑制・経済活動の両立で行動制限がなく、全国的な旅行支援やインバウンド再開もあって、多くの観光地がある「近畿」「北陸」「北海道」「九州・沖縄」などを中心に消費が改善した。宿泊料金の引き上げ等の物価高も吸収できているようだ。また、乗用車販売も供給制約の影響が一層弱まって持ち直しつつある。一方、資材価格の上昇などで住宅価格が上昇しており、貸家で利回りが低下していることなどから、住宅投資は「九州・沖縄」などで悪化している。そうした中、雇用・所得環境は「中国」「九州・沖縄」など多くの地域で引き続き改善した。先行きの需要回復への期待や人手不足・物価高に対応した賞与引き上げやベア実施等によって、賃上げと消費の好循環が動き始めているようだ。企業関連では、設備投資の動向にはあまり変化はなかったが、「東海」で乗用車の電動化・自動化対応等で研究開発投資や能力増強投資が増えている。輸出は「九州・沖縄」「東海」などで輸送用機械を中心に改善傾向だ。生産も「四国」で汎用・生産用機械、「九州・沖縄」で自動車、生産用・業務用機械などが改善しているが、「東北」「中国」では電子部品・デバイスの在庫調整などによりやや悪化した。企業マインドはおおむね改善している。なお、公共投資の動向には特に変化はなかった。
- 国内外では長引く物価高の影響で金融環境は引き締め傾向にあるが、国内では感染抑制と経済活動の両立が進んで全国で旅行支援やインバウンド再開による好影響が出ており、さらに賃上げの効果もあって、総じて景気は改善しつつある。一方、海外景気の後退懸念は引き続き高いことから、経済環境の不確実性には注意が必要だ。今後は、所得・雇用の改善と供給制約の緩和で内需回復が継続することで物価高のマイナスの影響が緩和され、家計関連は宿泊・外食などのサービスや自動車販売などで消費は改善するだろう。企業関連では海外景気の後退による生産・輸出の下振れリスクがあるものの、中長期的には環境対応等で設備投資の改善が期待できる。地域経済は緩やかな回復基調が続くが、物価高を吸収できる賃上げ環境の持続性を注視していく必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (22年7月→10月、10月→23年1月)



(注1) 各地域の数値は、2022年7月から10月の変化幅と2022年10月から2023年1月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（22年10月→23年1月）

| | 地域AI | 需要項目 | | | | 生産 | 企業 マインド |
|-------|------|------|------|------|----|----|------------|
| | | 消費 | 住宅投資 | 設備投資 | 輸出 | | |
| 北海道 | +0.1 | 赤 | 白 | 白 | 白 | 緑 | 白 |
| 東北 | ▲1.0 | 白 | 白 | 白 | 白 | 緑 | 赤 |
| 北陸 | +1.9 | 赤 | 白 | 白 | 白 | 赤 | 白 |
| 関東甲信越 | +0.9 | 白 | 白 | 白 | 白 | 白 | 赤 |
| 東海 | +2.7 | 赤 | 白 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 |
| 近畿 | +1.2 | 赤 | 赤 | 白 | 白 | 白 | 白 |
| 中国 | +0.5 | 白 | 白 | 白 | 白 | 緑 | 白 |
| 四国 | +1.5 | 赤 | 白 | 白 | 白 | 赤 | 赤 |
| 九州・沖縄 | +2.6 | 赤 | 緑 | 白 | 赤 | 赤 | 白 |

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

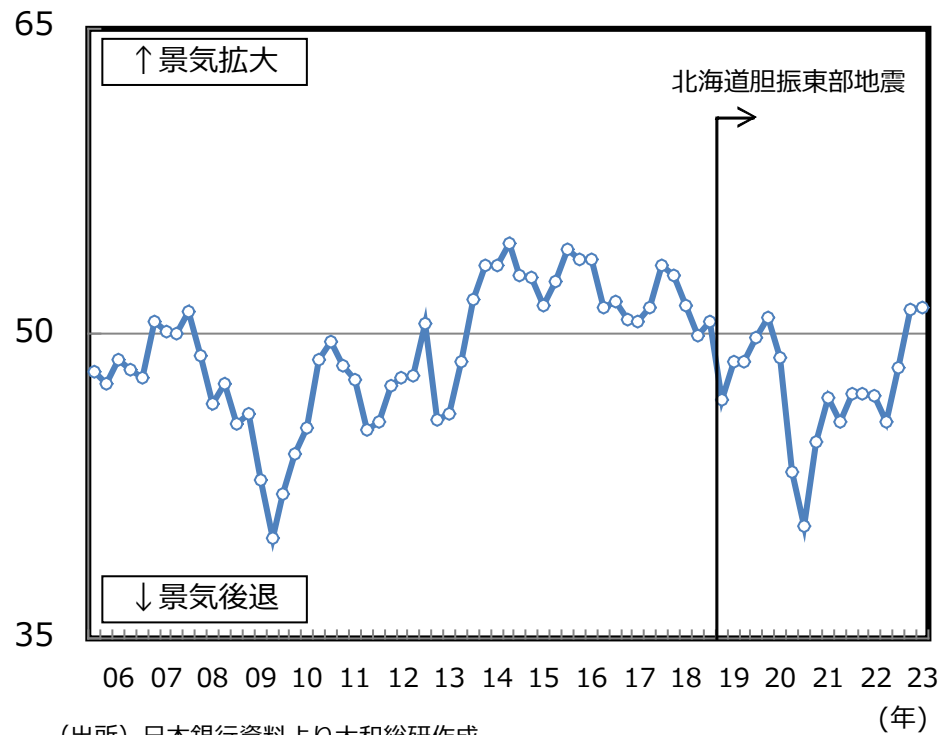
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (22年10月→23年1月) とポイント

| | |
|-----------|--|
| 北海道 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (22年10月 : 51.2 →23年1月 : 51.3)。生産が悪化した一方で、消費の判断が改善しインデックスは小幅に上昇した。 |
| 東北 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した (22年10月 : 51.5 →23年1月 : 50.5)。企業マインドが改善した一方で、生産等の判断が悪化しインデックスは小幅に低下した。 |
| 北陸 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (22年10月 : 49.2 →23年1月 : 51.1)。消費や生産、企業マインドの判断の改善がインデックスを押し上げた。 |
| 関東 甲信越 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (22年10月 : 51.2 →23年1月 : 52.1)。企業マインドや雇用・所得環境の判断が改善しインデックスを押し上げた。 |
| 東海 | 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年10月 : 47.0 →23年1月 : 49.7)。企業マインド、設備投資、輸出、生産、消費といった幅広い項目で改善が見られ、インデックスは上昇した。 |
| 近畿 | 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年10月 : 49.1 →23年1月 : 50.3)。企業マインドが小幅に悪化したのが、消費の改善が中心となってインデックスを押し上げた。 |
| 中国 | 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した (22年10月 : 50.6 →23年1月 : 51.1)。生産等の判断が悪化したものの、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。 |
| 四国 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (22年10月 : 49.0 →23年1月 : 50.5)。設備投資や住宅投資が小幅に悪化した一方で、生産や消費等の判断が改善しインデックスを押し上げた。 |
| 九州・ 沖縄 | 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (22年10月 : 51.3 →23年1月 : 53.9)。輸出や生産、消費、雇用・所得環境といった幅広い項目の改善を受けてインデックスは上昇した。 |

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：51.2 →23 年 1 月：51.3）。
- 生産が悪化した一方で、消費の判断が改善しインデックスは小幅に上昇した。
- 消費では全国旅行支援を受け観光関連が改善したほか、供給制約により減少していた乗用車販売が下げ止まった。

大和地域 AI インデックスの推移



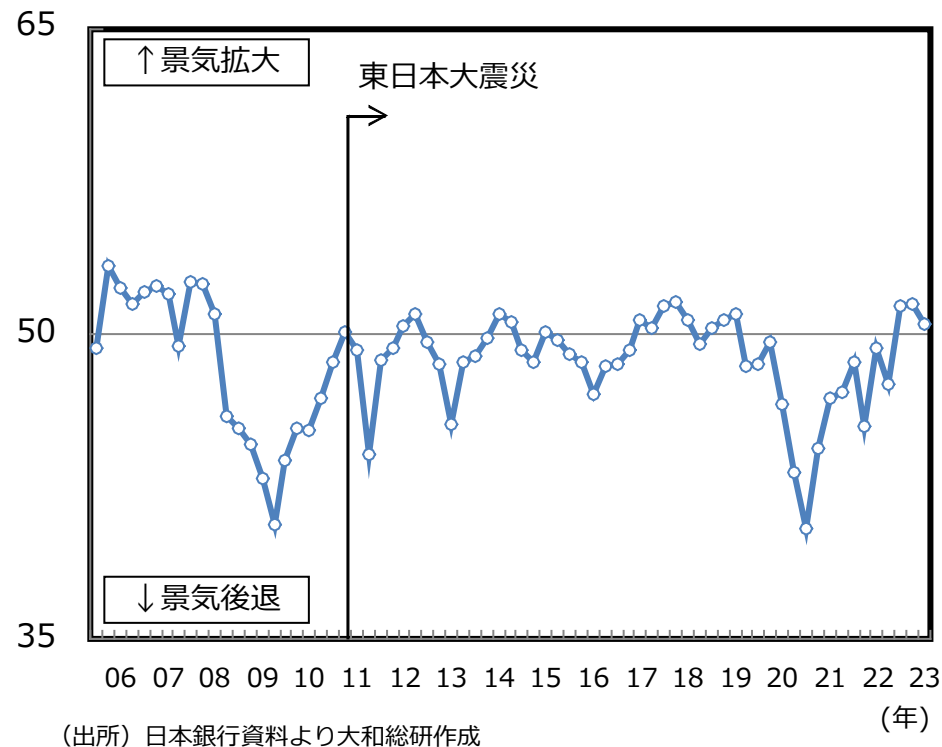
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|---------------------------------|------------------------|
| 【総括判断】 | → |
| 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |
| 【消費：観光】 | ↑ |
| 引き続き厳しい状況にあるものの、 緩やかに持ち直している | 全体としては、 緩やかに持ち直している |
| 【生産：食料品】 | ↓ |
| 一部に弱めの動きがみられるもの の、持ち直しつつある | 持ち直しの動きが一服している |

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した（22 年 10 月：51.5 →23 年 1 月：50.5）。
- 企業マインドが改善した一方で、生産等の判断が悪化しインデックスは小幅に低下した。
- 生産では電子部品・デバイスが高水準ながらも在庫調整により弱含んだほか、生産用機械等の増勢が一服したため、全体のインデックスを押し下げた。

大和地域 AI インデックスの推移



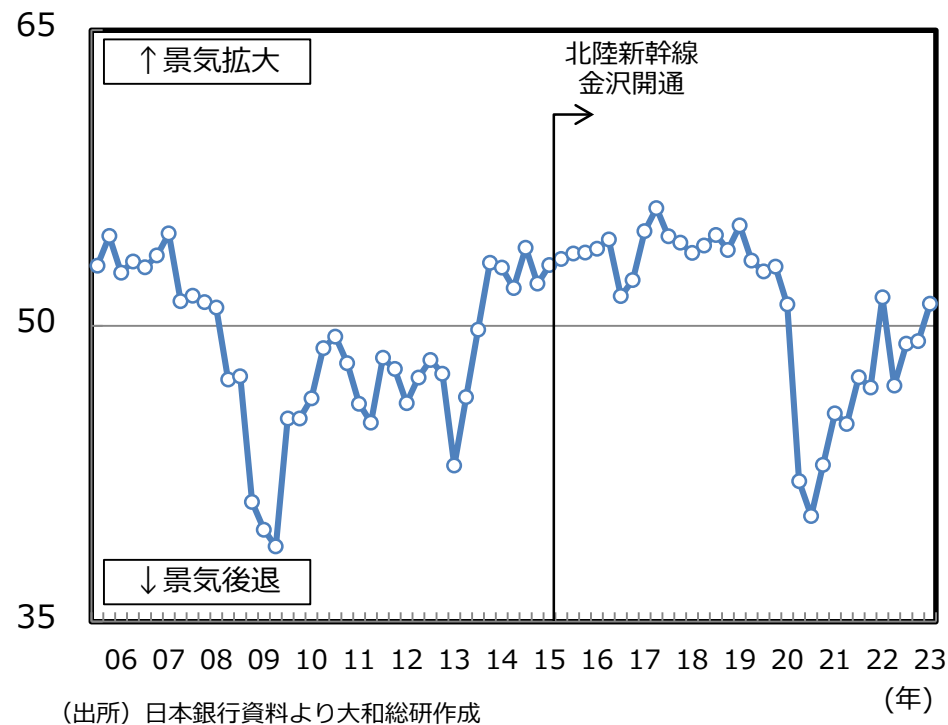
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 【総括判断】 | → |
| 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |
| 【企業の業況感】 | ↑ |
| 横ばいとなっている | 改善している |
| 【生産】 | ↓ |
| 供給制約の影響を受けつつも、総じてみれば持ち直し基調にある | 一部に弱さがうかがわれるものの、総じてみれば持ち直し基調にある |

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：49.2 →23 年 1 月：51.1）。
- 消費や生産、企業マインドの判断の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費では全国旅行支援の効果もあり、旅行取扱額やホテル・旅館の宿泊者数が持ち直している。生産も海外の旺盛な資源開発需要により生産用機械、そして完成車減産の影響緩和により車両用内装材といった繊維で改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



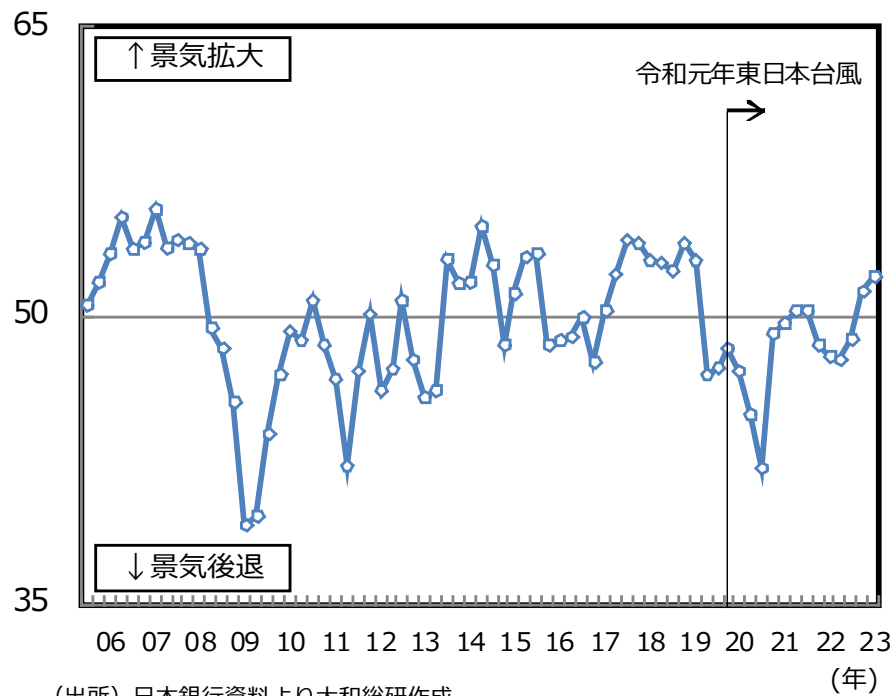
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|----------------|----------|
| 【総括判断】 | ↑ |
| 基調としては持ち直している | 持ち直している |
| 【消費】 | ↑ |
| 持ち直しの動きがみられている | 持ち直している |
| 【生産：生産用機械】 | ↑ |
| 増勢が鈍化している | 増加している |

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：51.2 →23 年 1 月：52.1）。
- 企業マインドや雇用・所得環境の判断が改善しインデックスを押し上げた。
- 当地域の 12 月短観では、製造業と非製造業ともに企業マインドが改善している。雇用・所得について、企業の主な声を見ると、飲食やドラッグストア・スーパーといった小売で賞与引き上げやベア実施など所得改善の動きが見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



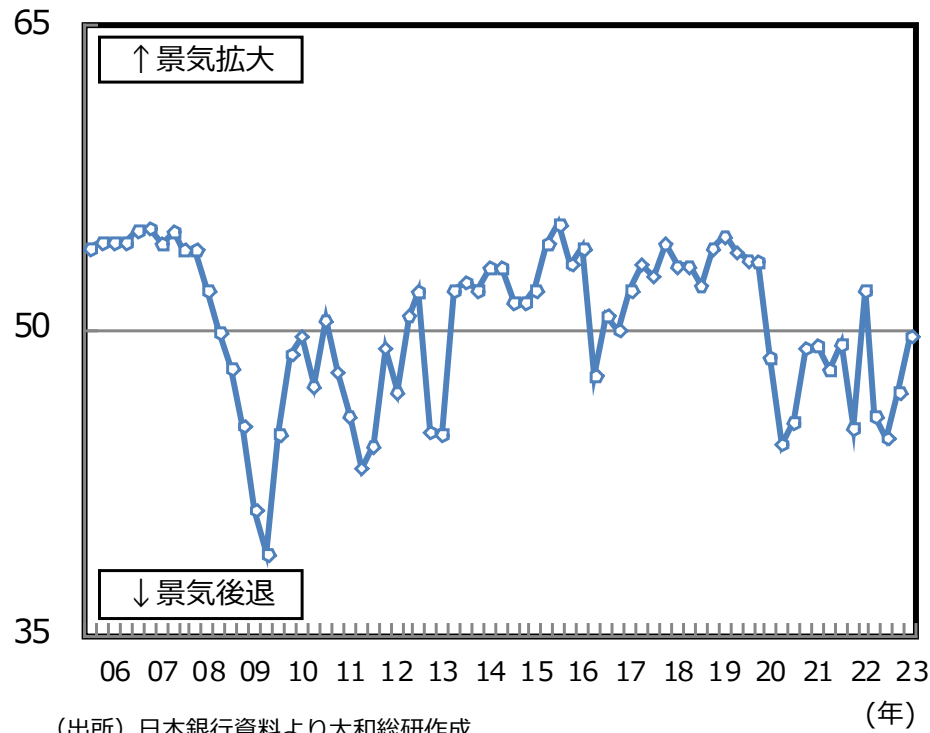
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|---|--------------------------|
| 【総括判断】 | ↑ |
| 感染抑制と経済活動の両立が進み、供給制約の影響が和らぐも、基調として持ち直している | 感染抑制と経済活動の両立が進むも、持ち直している |
| 【企業の業況感】 | ↑ |
| 概ね横ばいとなっている | 改善している |
| 【雇用・所得】 | ↑ |
| 労働需給に改善の動きがみられており、全体として持ち直しつつある | 全体として緩やかに改善している |

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：47.0 →23 年 1 月：49.7）。
- 企業マインド、設備投資、輸出、生産、消費といった幅広い項目で改善が見られ、インデックスは上昇した。
- 設備投資では乗用車の電動化・自動化対応等で研究開発投資や能力増強投資が増えている。

大和地域 AI インデックスの推移



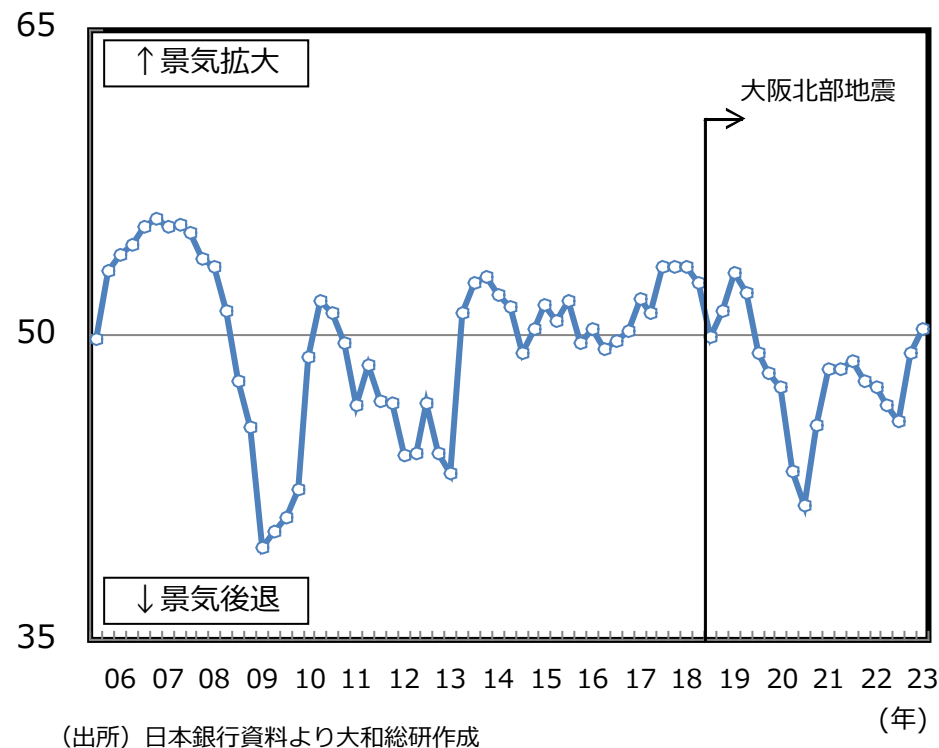
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| 【総括判断】 | → |
| 持ち直しの動きが一服している | 横ばいで推移している |
| 【設備投資】 | ↑ |
| 横ばい圏内となっている | 緩やかに増加している |
| 【消費】 | ↑ |
| 新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、持ち直しの動きがみられている | 一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している |

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：49.1 →23 年 1 月：50.3）。
- 企業マインドが小幅に悪化したが、消費の改善が中心となってインデックスを押し上げた。
- 消費では全国旅行支援や外国人観光客の増加に伴って旅行取扱額等が改善した。公共投資は、高速道路関連工事や文化庁の移転工事などにより、引き続き高水準で推移している。

大和地域 AI インデックスの推移



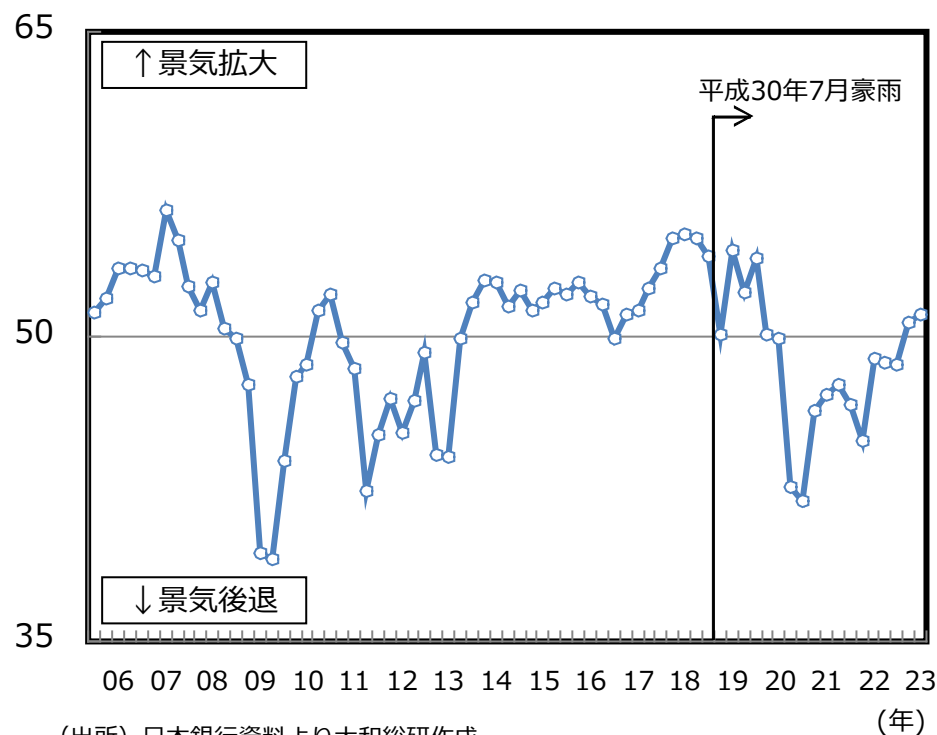
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 【総括判断】 | ↑ |
| 感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している | 感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している |
| 【消費】 | ↑ |
| 感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している | 感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、総じてみれば緩やかに増加している |
| 【公共投資】 | → |
| 高水準で推移している | 高水準で推移している |

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：50.6 →23 年 1 月：51.1）。
- 生産等の判断が悪化したものの、雇用・所得環境の改善によりインデックスは上昇した。
- 生産では、メモリの需要減少を受けた半導体生産の減少により化学で弱めの動きとなっており、また、中国系のスマホ向け受注の減少により電子部品・デバイスでも弱めの動きが見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



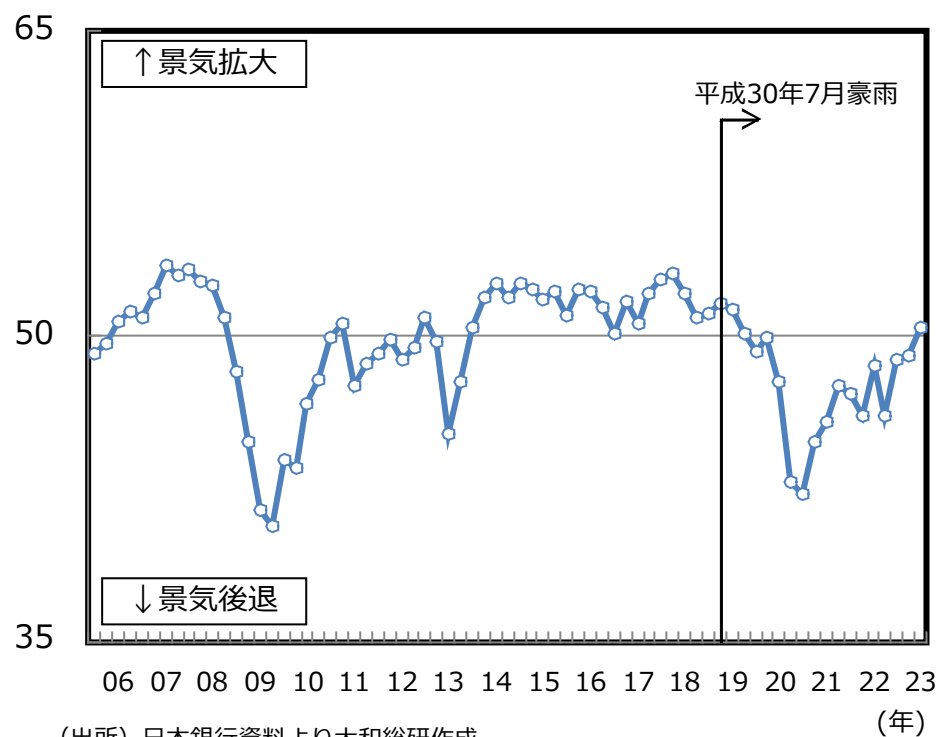
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|----------------------------------|-----------------|
| 【総括判断】 | → |
| 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |
| 【生産：化学】 | ↓ |
| 高操業を続けている | 弱めの動きとなっている |
| 【雇用・所得】 | ↑ |
| 一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに改善している | 全体として緩やかに改善している |

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：49.0 →23 年 1 月：50.5）。
- 設備投資や住宅投資が小幅に悪化した一方で、生産や消費等の判断が改善しインデックスを押し上げた。
- 生産では、海外建機の需要が旺盛であることや省人化投資による電動モーター部品への需要が拡大していることから、汎用・生産用機械で改善した。消費ではコンビニエンスストアが改善している。一方、住宅投資では弱めの動き。

大和地域 AI インデックスの推移



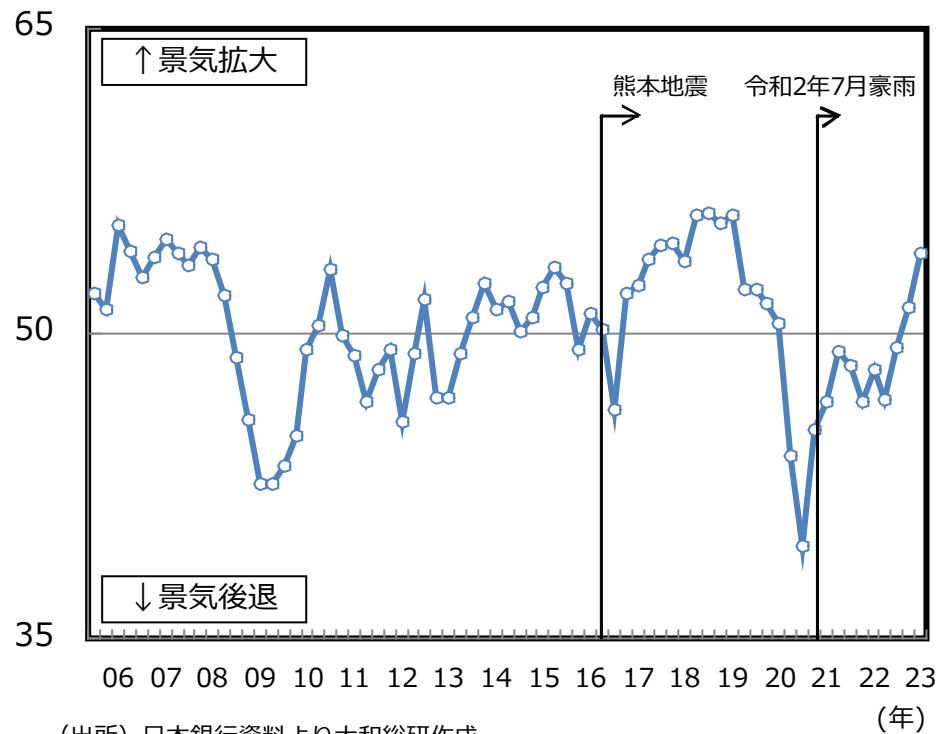
さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|--|-------------|
| 【総括判断】 | → |
| 一部に供給制約の影響が なお残る中、全体としては 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |
| 【生産：汎用・生産用機械】 | ↑ |
| 持ち直しの動きがみられる | 持ち直している |
| 【住宅投資】 | ↓ |
| 横ばい圏内の動きとなっている | 弱めの動きとなっている |

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（22 年 10 月：51.3 →23 年 1 月：53.9）。
- 輸出や生産、消費、雇用・所得環境といった幅広い項目の改善を受けてインデックスは上昇した。
- 消費は全国旅行支援や昨年 9 月の西九州新幹線の開業を受けて旅行・観光関連を中心に持ち直している。輸出も輸送用機械を中心に改善傾向。一方、住宅投資は販売価格の上昇や貸家の利回り低下で弱めの動きとなっている。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

| 22 年 10 月 | 23 年 1 月 |
|----------------|----------|
| 【総括判断】 | ↑ |
| 緩やかに持ち直している | 持ち直している |
| 【消費】 | ↑ |
| 緩やかに持ち直している | 持ち直している |
| 【輸出】 | ↑ |
| 持ち直しの動きが一服している | 持ち直している |

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが我が国の大きな課題**となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2023年1月12日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

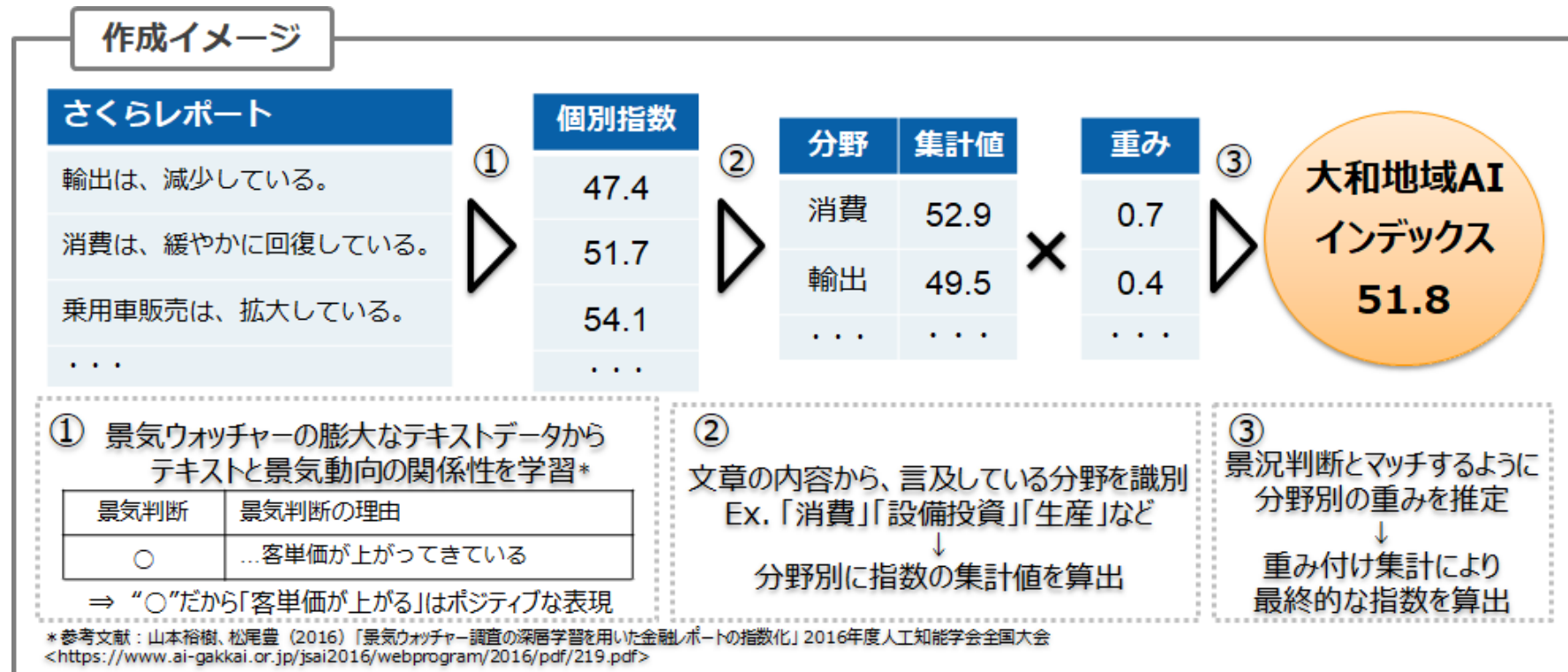
※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？
 - **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**
 - ※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的のリモデルを行う予定である。
- 具体的な作成手法は？
 - 日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。
 - AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習。**



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

| 日本銀行基準における地域区分 | |
|----------------|--|
| 北海道 | 北海道 |
| 東北 | 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 |
| 北陸 | 富山県、石川県、福井県 |
| 関東甲信越 | 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県 |
| 東海 | 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 |
| 近畿 | 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 |
| 中国 | 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 |
| 四国 | 徳島県、香川県、愛媛県、高知県 |
| 九州・沖縄 | 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 |

(出所) 日本銀行より大和総研作成